

5 校内研修

(1) 研究主題

生徒の学力を高める ICT 活用法の研究
～ロイロノートを用いた学習法の開発を目指して～

(2) 主題設定の理由

「未来投資戦略 2018」によると、2020 年までの 3 年間を生産性革命・集中投資期間とし、『Society5.0』の実現に向けて最先端の取組を伸ばし、日本経済全体の生産性の底上げを図ってきた。現在、ICT 機器の普及や AI、ビッグデータ、IoT などの社会実装が続く中、世界では革新的なデジタル市場が急速に勢いを増している。そのような中で日本は、世界に先駆けて人口減少に直面していることから、他国に比べ、失業などの問題に対していち早く社会の中に AI などの新技術を導入できる優位な立ち位置にいる。そのためこれからは、『Society5.0』による新しい生活や社会の姿を国民が共有し、今までの制度などの社会構造を改革していくことが日常のあらゆる分野で一気に進むことが考えられる。そのような社会情勢の中、生徒たちには情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見出した情報を活用しながら他者と共同し、新たな価値の創造に挑んでいけるようにするための「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力として確実に身につけることが求められている。

今年度、全面実施となった中学校学習指導要領（平成 29 年告示）では、「各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質能力を育成していくことができるよう、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」と述べられている。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の観点からも、「各学校において、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る。」と述べている。それらの内容を踏まえ、令和元年度、文部科学大臣から「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて ～令和時代のスタンダードとしての 1 人 1 台端末環境～」というメッセージを発端に GIGA スクール構想の実現に向けて、1 人 1 台のタブレット使用ができる環境整備が進められた。

日南市においては、平成 27 年度の教育基本構想の中では、新時代を生き抜く「4つの学ぶ力」を育てることを打ち出し、「他者から学ぶ力」「自ら学ぶ力」「自然から学ぶ力」「社会から学ぶ力」の4つの力の育成を目指している。その根底には、子どもたち一人一人が4つの視野を意識することで、自らのもつ特性の活かし方を知り、自分に合った学びの在り方を実感することで、生涯にわたって学ぶ意欲をもつことへとつながるという理念があり、学校教育の様々な場面で実践されてきた。ICT 環境に関しては、令和 2 年度の日南市教育振興基本計画において、情報機器の整備等に関することとして教育施設の整備・充実を施策のひとつに打ち出し、現在、環境整備が進んでおり、1 人 1 台の生徒用タブレット端末、無線 LAN の環境が整いつつある状況にある。

本校では、これまでの経緯で整備された ICT 機器の環境を最大限に有効活用し、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて授業改善をすることが求められてくる。これまで教師が大型スクリーンで生徒の興味関心を高める工夫がされていた単方向型の授業から、ロイロノートを用いて、教師からの問いかけに対して、生徒が回答するというリアルタイムのやりとりを実現する双方向型の授業を展開していく必要がある。そのために、研究の初年度における取組としては、まず、教師自身がタブレット端末を使用し、生徒へ使用法を含めた指導ができなければならない。また、タブレット端末を使用することは手段であって目的ではないため、授業における使用の取捨選択を考える上でも、今年度は積極的に用いることが必要である。今年度の研究における実践事例やデータを基に次年度以降は実際に学力を伸ばすための研究を進めていきたい。

以上の取組を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の授業改善を図ることによって、生徒が身につけるべき情報活用能力の育成がなされ、本校の教育目標である「心豊かで高い志をもち、自立する生徒の育成」の実現につながると考えられる。

(3) 研究の目標

細田中学校における各教科の授業において、タブレット（ロイロノート）が活用され、個に応じた多様な学びを実現し、情報活用能力を育成する授業改善を行うことを通して、生徒たちに情報活用能力を身につけさせる。

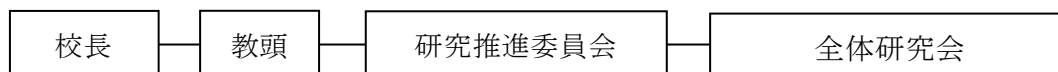
(4) 研究の仮説

授業の流れの中で、ロイロノートを活用し、「主体的・対話的」な授業への改善を図れば、生徒の情報活用能力の育成につながるであろう。

(5) 研究の内容

- ① 生徒・教師の実態把握
 - ・ 情報活用能力に関するアンケート・授業感想カードの作成、生徒への実施
 - ・ 教師側の意識調査（学期1回）
- ② ロイロノートを用いた学習法の開発
 - ・ ロイロノート使用に関する実技研修
 - ・ ロイロノートを使用した授業実践（相互参観）
 - ・ 各教科におけるロイロノート活用事例集の作成
- ③ 次年度を見据えた評価に関わる取組
 - ・ 新学習指導要領における評価の在り方
 - ・ ロイロノートを活用した、生徒個人ポートフォリオの作成
 - ・ 校務支援ソフトを使用した評定作成・管理

(6) 研究の組織



(7) 研究の計画

	期 日	内 容
主題研①	5 月	○ 主題研究全体構想説明 ○ 実技研修（タブレットの使用）
主題研②		○ 公務支援システム研修（基本操作・日常業務等） ○ ロイロノート実技研修（公務用パソコンでの使用）
主題研③		○ 情報活用能力に関する生徒アンケート・実施計画提案
主題研④	6 月	○ 評価に関する研修Ⅰ ○ ロイロノート実技研修（生徒のポートフォリオ作成）
主題研⑤		○ 評価に関する研修Ⅱ ○ 指導案形式提案（*重点支援校訪問の関係で変更あり）
主題研⑥	7 月	○ 授業感想カードの提案 ○ 公務支援システム研修（学期末作業等）
主題研⑦	夏期休業中	○ 相互授業参観提案 ○ 生徒・職員アンケート集計結果（1学期）
主題研⑧		○ ロイロノート活用研修（外部講師）
主題研⑨	9 月	○ 相互参観・事後研Ⅰ
主題研⑩	10 月	○ 相互参観・事後研Ⅱ
主題研⑪	11 月	○ 評価に関する研修Ⅲ
主題研⑫	1 月	○ 全国学調・みやざき学調の結果分析
主題研⑬	2 月	○ 研究のまとめ、実践事例集作成
主題研⑭	3 月	○ 今年度の反省・次年度の方向性に関する提案